

第2期の薬学教育第三者評価に向けた 評価基準の改定案について



平成29年6月22日(木)

薬学教育評価機構
基準・要綱検討委員会

評価基準改定ワーキンググループ

荒田洋一郎(帝京大学)

石井伊都子(日本病院薬剤師会)

入江 徹美(熊本大学)

大橋 綾子(岩手医科大学)

大河原 晋(横浜薬科大学)

小澤光一郎(広島大学)

黒澤菜穂子(北海道薬科大学)

中村 明弘(昭和大学)

長谷川洋一(名城大学)

安原 智久(摂南大学)

吉川 貴士(同志社大学)

渡邊 大記(日本薬剤師会)

渡邊真知子(帝京大学)

計 13名

- 平成27年11月から、平成29年5月まで15回にわたり検討。
- 今後10年間の大学教育および薬剤師養成に関するビジョンの検討、薬学教育の質の保証および向上を目指す。



第2期評価基準 改定にあたっての考え方

- 三つの方針の策定・運用と学修成果について。
- 三つの方針に基づいた自己点検・評価の実行。
(内部質保証)
- 基準のスリム化と明確化。
- 指摘の多い基準項目は、第2期で重点的に。
- 指摘の少ない基準項目は、観点に。
- 大項目・中項目の区分を外し、項目のみとする。



第1期では

現時点において、

■ 指摘の多い点

- 自己点検・評価がまだ十分に機能していない
- 国試対策が卒業研究を圧迫
- 学修成果の総合的な評価が不十分 など

■ 指摘の少ない点

- 学生支援、学習環境、社会貢献・連携 など

第2期



評価基準(改定案)



『基準』と『観点』について

- 第1期の評価実施を踏まえ、また評価実務の軽減を意識して、できるだけ基準を観点到、観点を注釈に移行しました。
- 注釈は、それぞれ該当する『基準』『観点』の記載内容を明確にしたり、例示したものです。
- なお、第1期とは異なり、『観点』をすべて満たせば『基準』を満たすという構成にはなっていません。
- また、第1期の評価を踏まえ、※で『基準』『観点』の用語の説明を加えました。

評価基準の構成

改定案

項目
1 教育研究上の目的と三つの方針
2 教育の質保証
3 薬学教育 カリキュラム
3-1 教育課程の編成
3-2 教育課程の実施
3-3 学修成果の評価
4 学生の受入
5 教員組織・職員組織
6 学生の支援
7 学習施設・設備
8 社会連携・社会貢献

現行

大項目	中項目
教育研究上の目的	1 教育研究上の目的
薬学教育 カリキュラム	2 カリキュラム編成
	3 医療人教員の基本的内容
	4 薬学専門教育の内容
	5 実務実習
	6 問題解決能力の醸成のための教育
	7 学生の受入
8 成績評価・進級・学士課程修了認定	
9 学生の支援	
教員組織・職員組織	10 教員組織・職員組織
学習環境	11 学習環境
外部対応	12 社会との連携
点検	13 自己点検・評価

基準・観点の数

	現行	改定案
『基準』の数	57	22
『観点』の数	176	51

評価基準の構成

改定案

項目
1 教育研究上の目的と三つの方針
2 教育の質保証
3 薬学教育 カリキュラム
3-1 教育課程の編成
3-2 教育課程の実施
3-3 学修成果の評価
4 学生の受入
5 教員組織・職員組織
6 学生の支援
7 学習施設・設備
8 社会連携・社会貢献

現行

大項目	中項目
教育研究上の目的	1 教育研究上の目的
薬学教育 カリキュラム	2 カリキュラム編成
	3 医療人教員の基本的内容
	4 薬学専門教育の内容
	5 実務実習
	6 問題解決能力の醸成のための教育
	学生
	8 成績評価・進級・学士課程修了認定
	9 学生の支援
教員組織・ 職員組織	10 教員組織・職員組織
学習環境	11 学習環境
外部対応	12 社会との連携
点検	13 自己点検・評価

学校教育法施行規則 第165条の2

- ① 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)
- ② 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)
- ③ 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)

このとき、②の方針を定めるにあたっては、①の方針との**一貫性の確保に特に意を用い**なければならない。

- ・全ての大学は、三つのポリシーを**一貫性あるもの**として策定し、公表するもの。
- ・三つのポリシーを起点とする**PDCAサイクル**をポリシーの策定単位ごとに確立し、教育に関する**内部質保証**を確立することが必要。

(平成28年3月31日「三つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」)

各ポリシーの基本的な考え方

ディプロマ・ポリシー	各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身につけたものに卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。
カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、 学修成果をどのように評価するのかを定める 基本的な方針。
アドミッション・ポリシー	各大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果(「学力の3要素」※についてどのような成果を求めるか)を示すもの。 ※(1)知識・技能、(2)思考力・判断力・表現力等の能力、(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

(平成28年3月31日「三つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」)

1 教育研究上の目的と三つの方針

再編成

【基準数】 3

【観点数】 7

- 【基準1-1】 薬学教育プログラムにおける教育研究上の目的が、大学および学部・学科の理念ならびに薬剤師養成教育として果たすべき使命を踏まえて設定され、公表されていること。
- 【基準1-2】 学部・学科の教育研究上の目的に基づき、授与する学位ごとに三つの方針(ポリシー)が一貫性・整合性のあるものとして策定され、公表されていること。
- 【基準1-3】 教育研究上の目的および三つの方針が定期的に検証されていること。

1 教育研究上の目的と三つの方針

【基準1-1】薬学教育プログラムにおける教育研究上の目的が、大学および学部・学科の理念ならびに薬剤師養成教育として果たすべき使命を踏まえて設定され、公表されていること。

注釈：「薬学教育プログラム」とは、6年制におけるプログラムを指す。複数学科を持つ場合は、教育研究上の目的を学科ごとに定めることが求められる。

【観点】

教育研究上の目的が、

1. 医療を取り巻く環境、薬剤師に対する社会のニーズを適確に反映したものとなっていること。
2. 学則等で規定され、教職員および学生に周知されるとともに、ホームページなどで広く社会に公表されていること。

1 教育研究上の目的と三つの方針

【基準1-2】 学部・学科の教育研究上の目的に基づき、授与する学位ごとに三つの方針(ポリシー)が一貫性・整合性のあるものとして策定され、公表されていること。

【観点】

- ★1. 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)では、卒業までに学生が身につけるべき資質・能力が具体的に設定されていること。
- ★2. 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)では、DPを踏まえた教育課程編成、当該教育課程における教育内容・方法、学修成果の評価の在り方等が具体的に設定されていること。
- ★3. 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)では、DP・CPを踏まえ、どのような学生を求め、その学生の多様な能力をどのように評価・選抜するか等、具体的に設定されていること。
- ★4. 教育課程の編成及び実施に関する方針(CP)は、学修の質を重視し、学修活動および評価が意図された学修成果に整合するように設定されていることが望ましい。
- 5. 三つの方針が、教職員および学生に周知されるとともに、ホームページなどで広く社会に公表されていること。

1 教育研究上の目的と三つの方針

【基準1-3】 教育研究上の目的および三つの方針が定期的に検証されていること。

努めていること ⇒ されていること

注釈：「検証」では、医療を取り巻く環境や薬剤師に対する社会のニーズの変化を調査した結果を踏まえて行うこと。

評価基準の構成

改定案

項目	
1	教育研究上の目的と三つの方針
2	教育の質保証
	3-1 教育課程の編成
3	薬学教育 カリキュラム
	3-2 教育課程の実施
	3-3 学修成果の評価
4	学生の受入
5	教員組織・職員組織
6	学生の支援
7	学習施設・設備
8	社会連携・社会貢献

現行

大項目	中項目
教育研究上の目的	1 教育研究上の目的
薬学教育 カリキュラム	2 カリキュラム編成
	3 医療人教員の基本的内容
	4 薬学専門教育の内容
	5 実務実習
	6 問題解決能力の醸成のための教育
	7 学生の受入
学生	8 成績評価・進級・学士課程修了認定
	9 学生の支援
	10 教員組織・職員組織
教員組織・職員組織	10 教員組織・職員組織
学習環境	11 学習環境
外部対応	12 社会との連携
点検	13 自己点検・評価

2 教育の質保証

【基準数】 2

【観点数】 4

【基準2-1】 三つの方針に基づいた教育の質保証を行うための自己点検・評価が適切に行われていること。

【基準2-2】 自己点検・評価結果等に基づいて教育研究活動の改善が適切に行われていること。

2 教育の質保証

【基準2-1】 三つの方針に基づいた教育の質保証を行うための自己点検・評価が適切に行われていること。

【観点】

1. 三つの方針に基づいた教育を自己点検・評価する**組織※**が設置されていること。

※ 外部委員および卒業生（6年制課程の卒業生で学内の大学院生、教職員を含まない）を含む。

★2. 三つの方針で具体化された入学者選抜、教育の実施及び卒業認定・学位授与の各段階における目標およびその達成状況について自己点検・評価が**継続的**に行われていること。

★3. 自己点検・評価は、教育研究活動の**質的・量的な解析※**に基づいていること。

※ 「質的・量的な解析」には、例えば以下の項目が含まれる。

- ・卒業の認定に関する方針に掲げた人材養成達成度
- ・在籍（留年・休学・退学など）および卒業状況の入学年次別分析
- ・6年卒業率 など

4. 自己点検・評価の結果がホームページなどで**公表**されていること。

2 教育の質保証

【基準2-2】 自己点検・評価結果等に基づいて教育研究活動の改善が適切に行われていること。

現行中項目「13」の基準・観点を整理

注釈：「自己点検・評価結果等」の「等」とは、行政機関、認証評価機関からの指摘事項を含む。また、自己点検・評価の結果等を教育研究活動に反映する体制が整備されていること。

評価基準の構成

改定案

項目
1 教育研究上の目的と三つの方針
2 教育の質保証
3 薬学教育 カリキュラム
3-1 教育課程の編成
3-2 教育課程の実施
3-3 学修成果の評価
4 学生の受入
5 教員組織・職員組織
6 学生の支援
7 学習施設・設備
8 社会連携・社会貢献

現行

大項目	中項目
教育研究上の目的	1 教育研究上の目的
薬学教育 カリキュラム	2 カリキュラム編成
	3 医療人教員の基本的内容
	4 薬学専門教育の内容
	5 実務実習
	6 問題解決能力の醸成のための教育
	学生
	8 成績評価・進級・学士課程修了認定
	9 学生の支援
教員組織・職員組織	10 教員組織・職員組織
学習環境	11 学習環境
外部対応	12 社会との連携
点検	13 自己点検・評価

3 薬学教育カリキュラム

【項目】 3

【基準数】 7

【観点数】 16

3-1 教育課程の編成

(1基準)

3-2 教育課程の実施

(2基準)

3-3 学修成果の評価

(4基準)

3-1 教育課程の編成

現行中項目「2」～「6」の
基準・観点を再編成

【基準3-1-1】薬学教育カリキュラムが、教育課程の編成及び実施に関する方針に基づいて構築されていること。

【観点】

1. 教育課程の編成及び実施に関する方針に基づくとともに、以下の教育が**体系的かつ効果的に編成**されていること。
 - ・ 教養教育、語学教育(医療の進歩・変革に対応し、医療現場で活用できる力を身につける)、人の行動と心理に関する教育、薬学教育モデル・コアカリキュラム平成25年度改訂版の各項目(基本事項・薬学と社会・薬学基礎・衛生薬学・医療薬学・薬学臨床・薬学研究)、大学独自の教育、問題解決能力の醸成のための教育
2. 薬学教育カリキュラムが、**薬学教育モデル・コアカリキュラム**に準拠した内容と**大学独自の内容**で適切に構成されていること。
3. 薬学教育カリキュラムが、**薬学共用試験**や**薬剤師国家試験**の**合格率の向上のみ**を目指した編成になっていないこと。
- ★4. 教育課程およびその内容、方法の適切性について必要に応じて**検証**され、その結果に基づいて**改善・向上**が図られていること。²²

3-2 教育課程の実施

★【基準3-2-1】 教育課程の編成及び実施に関する方針に基づいた教育が適切に実施されていること。

【観点】

1. 学習目標の達成に適した**学習方略**が用いられていること。

注釈:薬学研究では、必修単位化、十分な研究期間の設定、研究論文の作成、研究成果の医療や薬学における位置づけの考察、研究発表会が実施されていること。

2. 薬学臨床における実務実習が「**薬学実務実習に関するガイドライン**」を踏まえて適切に実施されていること。

★3. 学生の**資質・能力の向上**に資する新しい教授・学習方法を開発・導入していることが望ましい。

3-2 教育課程の**実施**

【基準3-2-2】 学生が教育課程上の成果を上げられるよう、履修指導※が適切に行われていること。

現行中項目「9」より

- ※ 入学者に対する薬学教育の全体像を俯瞰できるような導入ガイダンス、入学までの学習歴等に応じた履修指導、「薬学実務実習に関するガイドライン」を踏まえた実務実習ガイダンス、留年生・卒業延期者に対する履修指導を含む。

各ポリシーの基本的な考え方

ディプロマ・ポリシー	各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身につけたものに卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。
カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、 学修成果をどのように評価するのかを定める 基本的な方針。
アドミッション・ポリシー	各大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果(「学力の3要素」※についてどのような成果を求めるか)を示すもの。 ※(1)知識・技能、(2)思考力・判断力・表現力等の能力、(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

(平成28年3月31日「三つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」)

3-3 学修成果の評価

現行中項目「8」より

★【基準3-3-1】学修成果の評価が、教育課程の編成及び実施に関する方針に基づいて適切に行われていること。

(資質・能力)

【基準3-3-2】各科目の成績評価が、公正かつ厳格に行われていること。

(科目成績)

【基準3-3-3】進級判定が、公正かつ厳格に行われていること。

(進級判定)

【基準3-3-4】卒業認定が、卒業の認定に関する方針に基づいて適切に行われていること。

(卒業認定)

3-3 学修成果の評価

★【基準3-3-1】 学修成果の評価が、教育課程の編成及び
(資質・能力) 実施に関する方針に基づいて適切に行われ
ていること。

【観点】

★1. 学生が身につけるべき資質・能力が、学修段階に応じて評価され、適宜**フィードバック**されていること。

注釈: 評価に際しては、教育課程の編成及び実施に関する方針に基づいて適切に評価計画(例えば教育課程の編成及び実施に関する方針に基づいて設定したカリキュラムに則った教育の実施により、学習効果をいつ、どのような方法で測定するかの計画)が策定されていることが望ましい。また、コミュニケーション能力、問題解決能力については、総合的な評価の指標を設定したうえで、評価し、フィードバックすること。

3-3 学修成果の評価

★【基準3-3-1】学修成果の評価が、教育課程の編成及び
(資質・能力) 実施に関する方針に基づいて適切に行われていること。

【観点】

2. 薬学共用試験(CBTおよびOSCE)を通じて実務実習を履修する学生の能力が、一定水準に到達していることが確認されていること。

注釈: 実務実習を行うために必要な能力を修得していることが、薬学共用試験センターの提示した合格基準に基づいて確認されていること。

薬学共用試験(CBTおよびOSCE)の実施時期、実施方法、受験者数、合格者数および合格基準が公表されていること。

★3. 学生の資質・能力の向上に資する新しい評価方法を開発・導入していることが望ましい。

3-3 学修成果の評価

**【基準3-3-2】 各科目の成績評価が、公正かつ厳格に行
(科目成績) われていること。**

【観点】

1. 各科目において適切な成績評価の方法・基準が**設定**され、かつ学生に**周知**を図っていること。
2. 各科目の成績評価が、設定された方法・基準によって**公正**かつ**厳格**に行われていること。
- ★3. 成績評価の結果が、必要な関連情報とともに当事者である学生に**告知**されるとともに、成績評価に対しての学生からの異議申立の仕組みを**整備**していること。

3-3 学修成果の評価

**【基準3-3-3】 進級判定が、公正かつ厳格に行われてい
(進級判定) ること。**

【観点】

1. 進級判定は、進級基準、留年の場合の取り扱い※等を設定・周知し、公正かつ厳格に行われていること。

※ 留年生に対する上位学年配当の授業科目の履修を制限する制度、再履修を要する科目の範囲など。

3-3 学修成果の評価

**【基準3-3-4】 卒業認定が、卒業の認定に関する方針に
(卒業認定) 基づいて適切に行われていること。**

【観点】

1. **卒業認定の判定基準※が卒業の認定に関する方針に基づいて適切に設定され、学生に周知を図っていること。**

※ 単に修得単位数だけではなく、卒業の認定に関する方針に掲げた学生が身につけるべき資質・能力の評価を含む。

2. **卒業認定が判定基準に従って適切な時期※に、公正かつ厳格に行われていること。**

※ 卒業見込者が当該年度の薬剤師国家試験を受験できる時期。

評価基準の構成

改定案

項目
1 教育研究上の目的と三つの方針
2 教育の質保証
3 薬学教育 カリキュラム
3-1 教育課程の編成
3-2 教育課程の実施
3-3 学修成果の評価
4 学生の受入
5 教員組織・職員組織
6 学生の支援
7 学習施設・設備
8 社会連携・社会貢献

現行

大項目	中項目
教育研究上の目的	1 教育研究上の目的
薬学教育 カリキュラム	2 カリキュラム編成
	3 医療人教員の基本的内容
	4 薬学専門教育の内容
	5 実務実習
	6 問題解決能力の醸成のための教育
	7 学生の受入
学生	8 成績評価・進級・学士課程修了認定
	9 学生の支援
教員組織・職員組織	10 教員組織・職員組織
学習環境	11 学習環境
外部対応	12 社会との連携
点検	13 自己点検・評価

4 学生の受入

【基準数】 2

【観点数】 6

【基準4-1】 入学志願者の適性および資質・能力が、
入学者の受入れに関する方針に基づいて適
切に**評価**されていること。

【基準4-2】 入学者数が入学定員数と**乖離**していない
こと。

4 学生の受入

【基準4-1】 入学志願者の適性および資質・能力が、入学者の受入れに関する方針に基づいて適切に評価されていること。

【観点】

- 1. 入学志願者の評価と受入の決定が、責任ある体制の下で適切に行われていること。**
- 2. 医療人としての適性を評価するための工夫がなされていることが望ましい。**
- 3. 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の機会を提供していること。**
- ★4. 学生の受入の適切性について必要に応じて検証され、その結果に基づいて改善・向上が図られていること。**

4 学生の受入

【基準】 入学者数が入学定員数と乖離していないこと。

【観点】

- 1. 最近6年間の入学者数が入学定員数を大きく上回っていないこと。**
- 2. 最近6年間の入学者数が入学定員数を大きく下回っていないこと。**

評価基準の構成

改定案

項目
1 教育研究上の目的と三つの方針
2 教育の質保証
3 薬学教育 カリキュラム
3-1 教育課程の編成
3-2 教育課程の実施
3-3 学修成果の評価
4 学生の受入
5 教員組織・職員組織
6 学生の支援
7 学習施設・設備
8 社会連携・社会貢献

現行

大項目	中項目
教育研究上の目的	1 教育研究上の目的
薬学教育 カリキュラム	2 カリキュラム編成
	3 医療人教員の基本的内容
	4 薬学専門教育の内容
	5 実務実習
	6 問題解決能力の醸成のための教育
	7 学生の受入
学生	8 成績評価・進級・学士課程修了認定
	9 学生の支援
	10 教員組織・職員組織
学習環境	11 学習環境
外部対応	12 社会との連携
点検	13 自己点検・評価

5 教員組織・職員組織

【基準数】 5

【観点数】 7

【基準5-1】 教育研究上の目的に沿った教育研究活動の実施に必要な**教員組織**が整備されていること。

【基準5-2】 教育研究上の目的に沿った教育研究活動が、**教員組織**によって行われていること。

【基準5-3】 教育研究上の目的に沿った研究活動が行えるよう、**研究環境***が整備されていること。

【基準5-4】 教育研究上の目的に沿った教育研究活動の実施に必要な**職員組織***が整備されていること。

【基準5-5】 教育研究活動の向上を図るための**組織的な取り組み***が適切に行われていること。

5 教員組織・職員組織

基準⇒観点

【基準5-1】 教育研究上の目的に沿った教育研究活動の実施に必要な教員組織が整備されていること。

【観点】

1. 専任教員数については法令に定められている数以上であること。また、教授※、准教授、講師、助教の**人数比率**および**年齢構成**が適切であること。

※ 大学設置基準に定める教員数の半数以上

2. 専門分野について、教育上および研究上の優れた実績を有する者、あるいは優れた知識・経験および高度の技術・技能を有する者のいずれかに該当し、かつ、その担当する専門分野に関する教育上の指導能力と高い見識があると認められる者が、**専任教員**として配置されていること。

3. カリキュラムにおいて**重要と位置付けた科目**には、専任の教授または准教授が配置されていること。

4. 教員の**採用**および**昇任**が、適切な規程に基づいて実施されていること。

★5. 教育研究上の目的に沿った教育研究活動を継続するために、**次世代**の専任教員の**養成**に努めていること。

5 教員組織・職員組織

【基準5-2】 教育研究上の目的に沿った教育研究活動が、教員組織によって行われていること。

【観点】

- 1. 教員の活動が、最近5年間ににおける教育研究上の業績等で示され、開示されていること。**
- 2. 薬剤師としての実務の経験を有する専任教員が、常に新しい医療に対応するために研鑽できる体制・制度の整備に努めていること。**

5 教員組織・職員組織

観点⇒※

【基準5-3】 教育研究上の目的に沿った研究活動が行えるよう、研究環境※が整備されていること。

※ 研究時間の確保、研究費の配分、研究スペースの確保など

【基準5-4】 教育研究上の目的に沿った教育研究活動の実施に必要な職員組織※が整備されていること。

※ 教員以外の組織

【基準5-5】 教育研究活動の向上を図るための組織的な取り組み※が適切に行われていること。

※ 組織・体制の整備、授業評価アンケートなどに基づく授業改善、ファカルティ/スタッフ・デベロップメントを含む。

評価基準の構成

改定案

項目
1 教育研究上の目的と三つの方針
2 教育の質保証
3 薬学教育 カリキュラム
3-1 教育課程の編成
3-2 教育課程の実施
3-3 学修成果の評価
4 学生の受入
5 教員組織・職員組織
6 学生の支援
7 学習施設・設備
8 社会連携・社会貢献

現行

大項目	中項目
教育研究上の目的	1 教育研究上の目的
薬学教育 カリキュラム	2 カリキュラム編成
	3 医療人教員の基本的内容
	4 薬学専門教育の内容
	5 実務実習
	6 問題解決能力の醸成のための教育
	7 学生の受入
学生	8 成績評価・進級・学士課程修了認定
	9 学生の支援
教員組織・職員組織	10 教員組織・職員組織
学習環境	11 学習環境
外部対応	12 社会との連携
点検	13 自己点検・評価

6 学生の支援

【基準数】 1

【観点数】 8

基準⇒観点
観点⇒※

【基準】 修学支援体制が整備されていること。

【観点】

- ★1. 学生が在学期間中に教育課程上の成果を上げられるよう、**学習・生活相談**の体制が整備されていること。
2. 学生が学修に専念できるよう、学生の**経済的支援**に関する体制※が整備されていること。
※ 奨学金等の経済的支援に関する情報提供窓口の設置、独自の奨学金制度など。
3. 学生が学修に専念できるよう、学生の**健康維持**に関する支援体制※が整備されていること。
※ 学生のヘルスケア・メンタルケア、生活相談のための学生相談室などの整備、定期的な健康診断の実施など。
4. 学生に対する**ハラスメントを防止**する体制※が整備されていること。
※ ハラスメント防止に関する規定の整備、ハラスメント問題に対応する委員会・相談窓口の設置、学生・教職員への周知など。

6 学生の支援

【観点】

5. **障がい**のある者に対して、受験の機会を提供するよう配慮するとともに、**障がい**のある学生に対する施設・設備上および学修・生活上の支援体制の整備に努めているか。
6. 学生が主体的に**進路を選択**できるよう、必要な支援体制※が整備されていること。

※ 進路選択に関する支援組織や委員会の設置、就職相談会の開催など

7. **学生の意見**を教育や学生生活に反映するための体制※が整備されていること。

※ 学生の意見を収集するための組織や委員会の設置、アンケート調査の実施など。

8. 学生が安全かつ安心して**学修に専念**するための体制※が整備されていること。

※ 実験・実習および卒業研究等に必要な安全教育、各種保険（傷害保険、損害賠償保険等）に関する情報の収集・管理と学生に対する加入の指導、事故や災害の発生時や被害防止のためのマニュアルの整備と講習会の開催、学生および教職員への周知など。

評価基準の構成

改定案

項目
1 教育研究上の目的と三つの方針
2 教育の質保証
3 薬学教育 カリキュラム
3-1 教育課程の編成
3-2 教育課程の実施
3-3 学修成果の評価
4 学生の受入
5 教員組織・職員組織
6 学生の支援
7 学習施設・設備
8 社会連携・社会貢献

現行

大項目	中項目
教育研究上の目的	1 教育研究上の目的
薬学教育 カリキュラム	2 カリキュラム編成
	3 医療人教員の基本的内容
	4 薬学専門教育の内容
	5 実務実習
	6 問題解決能力の醸成のための教育
	7 学生の受入
学生	8 成績評価・進級・学士課程修了認定
	9 学生の支援
	10 教員組織・職員組織
教員組織・職員組織	10 教員組織・職員組織
学習環境	11 学習環境
外部対応	12 社会との連携
点検	13 自己点検・評価

7 学習施設・設備

基準⇒※
観点⇒・

【基準数】 1

【観点数】 0

【基準】 教育研究上の目的に沿った教育を実施するための以下の施設・設備が適切に整備されていること。

- 教室(講義室、実験実習室、演習室など)
- 動物実験施設
- 薬用植物園
- 図書室・資料閲覧室・自習室※
- 能動的学習が効果的に実施できる施設・設備
- 臨床準備教育のための施設(模擬薬局など)・設備
- 薬学研究のための施設・設備

※必要な図書と学習資料(電子ジャーナル等)、利用時間の設定(適切な設定時間)など。

評価基準の構成

改定案

項目
1 教育研究上の目的と三つの方針
2 教育の質保証
3 薬学教育 カリキュラム
3-1 教育課程の編成
3-2 教育課程の実施
3-3 学修成果の評価
4 学生の受入
5 教員組織・職員組織
6 学生の支援
7 学習施設・設備
8 社会連携・社会貢献

現行

大項目	中項目
教育研究上の目的	1 教育研究上の目的
薬学教育 カリキュラム	2 カリキュラム編成
	3 医療人教員の基本的内容
	4 薬学専門教育の内容
	5 実務実習
	6 問題解決能力の醸成のための教育
	7 学生の受入
学生	8 成績評価・進級・学士課程修了認定
	9 学生の支援
	10 教員組織・職員組織
教員組織・職員組織	10 教員組織・職員組織
学習環境	11 学習環境
外部対応	12 社会との連携
点検	13 自己点検・評価

8 社会連携・社会貢献

【基準数】 1 【観点数】 3

★【基準】 教育研究活動を通じて、社会と連携し、社会に貢献していること。

【観点】

努めていること ⇒ していること

1. 教育研究活動を通じて、医療・薬学の発展および薬剤師の**資質・能力の向上に貢献***していること。

※ 地域の薬剤師会・病院薬剤師会・医師会などの関係団体および行政機関との連携、生涯学習プログラムの提供など。

2. 教育研究活動を通じて、地域における**保健衛生の保持・向上に貢献***していること。

※ 地域住民に対する公開講座の開催、地域における保健衛生の保持・向上につながる支援活動など。

3. 教育研究活動を通じて、医療および薬学における**国際交流の活性化***に努めていること。

※ 英文によるホームページの作成、大学間協定、留学生の受入、教職員・学生の海外研修など。

